

テーマ

第 19 回日本医療マネジメント学会学術総会

平成 29 年 7 月 7 日
豊見城中央病院地域連携室 仲地 貴弘

去る 7 月 7 日 8 日に日本医療マネジメント学会学術総会が七夕まつりで有名な仙台で開催された。メインテーマは「地域を守るあたたかな医療～患者・職員の満足をめざして～」。全国各地から 3000 名を超える地域連携実務者が参加し多くの発表があった。全てを聞くことは困難であったが、地域連携に関するいくつかの演題を聞くことができた。そこで印象に残ったのが地域包括ケアシステム時代の連携の在り方である。

「地域包括ケアシステム」という言葉は、ほとんどの MSW や地域連携に従事する方は日に何度も聞いていると思う。さらに厚労省の作成した図が頭に浮かぶと思う。多くの方が急性期と慢性期、介護施設、行政、消防等が地域の中でつながり連携していくことをイメージしていると思う。私もそうであったが、今回の一般演題の中で「社会連携」という発表を聞いた。地域包括ケアシステムの図を用いて医療介護連携から「社会連携へ」と述べていた。その発表では実例として急性期病院の医師と地元温泉企業がコラボして企画してできた「湯治プロジェクト」。また地元の料理家と病院の管理栄養士、地域の薬剤師がコラボしてできた「健康ごはんプロジェクト」。音楽家と歯科医師、言語聴覚士、呼吸療法士がコラボした「歌の力で健康を高めるプロジェクト」などの紹介があった。

病院というリソースを最大限に活用するには、院内だけでなく地域に出ていくことが必要なのだと考えさせられた。また、医療介護関係だけでなく NPO 団体や一般企業などの異業種との連携も重要だと感じた。同時に「地域包括ケア時代」の医療ソーシャルワーカーも病院の外へ活動を広げる必要があるのではないか。「社会連携」にどう MSW が関わっていくのか？今後の発展に期待できる有意義な学会であった。

様式 1

研修参加報告